

研究発表

古今集への影響と古今集からの影響

Influences on and of the Kokinshu

ニコラス・ティール*

Abstract

The aim of this paper is fourfold: 1) to apply the methodology of Literary Structuralism to the analysis of the processes of the influences on and of the Kokinshu, 2) to show how great the extent of those influences are by giving minimum statistics for each major area of influence, 3) to follow both the path of the influence of Chinese poetry and of the Manyoshu upon one poem from Book Nine, the Travel Poems, of the Kokinshu, and to follow the path of the influence of that poem upon later Japanese literature as exemplified by the Shuishu, Goshuishu, Utsuho Monogatari, Shinkokinshu, Genji Monogatari, renga, and Noh, and 4) to suggest that an analysis of the processes of these influences as they are found in the Travel Poems of the Kokinshu reveals both that the poems of that anthology contain a lasting brightness and strength which results from the combination of the early Heian Buddhism and Shinto thought upon

※ Nicholas J. Teele [現職] 筑波大学講師

which they are based, and that the analysis reveals also the successive changes in Buddhist thought that are found in the Late Heian, Kamakura, and Muromachi periods, thus affording a way of understanding those aspects of Buddhist thought which are considered inexpressible except through the best art, poetry, and music.

私は2年半前、「古今集」の全英訳を始めました。その研究をつづけていくうちに、「古今集」に関しての影響もしらべるべきだと思うようになりました。しかし、契沖の「古今餘材抄」までしらべないとそれぞれの歌に関する影響は詳細にかかれておりません。英語による研究ではその影響に関してはほとんどかかれておりませんので「古今集」が日本古典文学の中でどれくらい重要であるかはよく知られておりません。

ヨーロッパとアメリカの文学においては一つの詩撰集が「古今集」と同じぐらいの影響を与えられる事は考えられませんから「古今集」の与えた影響を理解する事はとてもむずかしいです。

古今後の日本文学の大部分を読むと古今集をしらないとまるで近眼の人がめがねをかけないで美しい絵を見るのと同じようである事がわかります「ああ、色はきれいだな」と言えるけれどもその絵を理解できとは思われません。

私は、今日、「古今集」の影響とその影響過程を理解するために2、3年前からアメリカやヨーロッパで盛んになったLiterary Structuralism、つまり「文学作品の構造」の理論を使いたいと思います。この理論の目的は、ある作品の中の一つの研究対象を選んで、その対象の機能のルールを発見する事です。そのルールがわかれば、その作品の知的な意味がわかるようになります。(注1)

今日、私はこの理論にしたがって、作品を「古今集」、研究対象を「古今集」の受けた影響と与えた影響として述べる事にします。この研究を始めてまだ1年しかたっていないために残念ながら、まだ研究は部分的にしかまとまっております。

「古今集」の影響の過程を調べるために「古今集」の第9巻、羈旅歌を調べましたが、今日、時間はあまりありませんので、その中にある411番の歌に与えた「万葉集」「文選」や唐詩漢詩の、影響と、その和歌が「拾遺集」、「後拾遺集」、「うつほ物語」、「源氏物語」、「新古今集」、連歌や謡曲へ与えた

影響だけについて話をしたいと思います。今日とりあげたい歌は「伊勢物語」にも出ています。すなわち、

名にしおはばいざこととはん都鳥

わが思ふ人はありやなしやと

と言う歌です。

この歌にある都鳥という名前はすでに「万葉集」に出ています。第20巻、4462番、大伴家持の歌です。

舟ぎほふほりえの川のみなきはに

来居つつなくは都鳥かも

この「万葉集」の歌では、都鳥はただの鳥ですが「古今集」の歌には都鳥は都からのメッセンジャーとして意味が加わり、業平はこの鳥を見て遠い都を思い出し大変さびしくなりました。妻からはなれて、苦難の旅を続けている旅人の気持ちです。古今時代の歌は「万葉集」の言葉を新しい意味をこめて使いました。「古今集」の2071語の中の1400語が「万葉集」と共通しています。延べ語数で「万葉集」の77%「古今集」の90%になります。(注2) もちろん、「万葉集」の影響は言葉だけではなく、枕詞や懸詞のテクニックや、或いは本歌取の影響もあります。(注3)

漢詩からの影響に関しては「名にしおはば」には例が2つあります。第二句「いざこととはん」は漢語で「借問^{しやもん}」(注4)となります。この言葉は「文選」には八回でできます。杜甫や李白もその言葉を使いました。第4句「わが思ふ人は」の「思」については峯岸義秋先生は次のようにのべられています。「『思』は中国文学からヒントを得ての部立であって、当時の文人たちは「交選」の「思婦」のような立場に立って詠むことに興味が感じられたであろうが、本質的にわが国の恋との区別迷ったであろう。」(注5)

「名にしおはば」の歌の都鳥のように、自然が人事化された発想の過程も中国の影響であるようです。安藤テルヨ先生の研究によれば、「古今集様式の著しい特色としては理知的(因果的)、語戯的、時間的、観念的、譬喩的

でしかも自然は人事化され、人事は自然化されて両者の融合がみられる事等があげられるであろう。」(注6)……このような発想は仏教の影響を受けて「六朝後期に著しく盛になり、文選、特に玉台新詠に頗る多く用い……」(注6)られました。

譬喩的発想は「万葉集」にもありますが、安藤先生は次のようにのべておられます。「古今集を最も代表していると思われる撰者の歌について、その譬喩歌の割合を万葉集の著名作家に比すと万葉集が9%であるのに対し古今集は50%の比率を占める。」(注7)これは六朝後期、特に文選の影響です。

「万葉集」のテクニックと万葉の言葉の使い方、漢詩の言葉やテクニックと句題和歌(注8)の方法は、古今歌人達によって古今風に作り変えられていました。

今まで私は、「名にしおはば」の歌の受けた影響について話をしましたが今度は、その和歌の与えた影響について話したいと思います。与えた影響の過程が、受けた影響の過程と同じかどうか見てみましょう。

さきに申しましたように、「万葉集」と「古今集」の共通語はそれぞれの全体の語の77%と90%になりますが、「古今集」と「新古今集」の共通語の延べ語数は、それぞれの全体の語の95%と92%であります。(注9)「名にしおはば」の「新古今集」への道は次のようになります。

1. 「うつほ物語」の吹上の上の巻には

名にしあふせきをもこえし都鳥

こえするかたとももしきにして

2. 「拾遺集」の1193番のよみ人しらずの歌は

心ありてとふにはあらず世の中に

ありやなしやのきかまほしきぞ

3. 「後拾遺集」の509番の和泉式部の歌は

こととはば有のまにまに都鳥

みやこのことを我につげなん

1, 3の歌には都鳥はまだメッセンジャー的役割があります。「うつほ物語」の歌の都鳥は詠み人からの使者であり、和泉式部の歌では、都鳥は詠み人への使者で、業平と同じ気持ちです。「拾遺集」の歌は片思いの気持ちを詠んでいます。

次の「新古今集」の歌は、この2番目「心ありてとふにはあらず」の歌と似ていますが少々ちがいます。

977 番で宜秋門院丹後の歌

おぼつかな都にすまぬ都鳥

こととふ人にいかでこたへし

908 番で女御徽子女王の歌

人を猶うらみつべしや都鳥

ありやとだにもとふをきかねば

これらの歌の中では「都鳥」はおぼつかないものになりましたから、かなり新しい意味を与えたと言えます。しかし、ニュアンスは変わっても古今集の歌を思い出させます。「新古今集」の受けた影響の中で「古今集」からが一番強いと思います。

奥村恒哉先生の研究によれば、「新古今集」における本歌取の歌は全て、270首、そのうち古今集を本歌とするもの154首……」で次の「万葉集」を本歌とするものは23首です。(注10) 言葉に新しい意味を与えても本の歌がわからなければなりません。影響の過程として、本歌取はきわめて強いですが、枕詞、懸詞の影響もあります。

次に「源氏物語」を見てみましょう。「源氏物語」でも「古今集」の影響は大変強いです。奥村先生の研究(注11)によると「古今集」中の132首の影響が233回でています。「名にしおはば」の歌の場合、「手習」の巻には「みめも心ざまも昔見し宮こ鳥に似たるはなし、何事につけても世の中にあらぬ所はこれにやあらん。」「都鳥」しか出ていません。こういう例は多いようです。影響の過程としては、新しい意味を与えず、本の意味そのものを思

い出させることが目的です。つまり、「源氏物語」時代には「古今集」はほとんど暗記した程重要なものでしたから、「あの人の歌」とか「昔見し都鳥」と言えばそれだけでもその歌はすぐわかりました。「名にしおはば」の歌の場合、その「手習」にある感情を深くするために使われたと思います。「源氏物語」の「都鳥」の使い方は、「新古今集」より深刻です。

次は連歌に見られる「古今集」の影響ですが、これについては研究はあまりありませんので影響はまだはっきりしません。金子金治部先生の研究によると、「古今集」の影響が一番強いという事です。(注12)「菟玖波集抄」には「古今集」の54首の影響が見られます。「新選菟玖波集」には「名にしおはば」の影響は次のようです。

- 53 我がかたをとふ人になさばや
- 54 名のみしてかひなきものぞみやこ鳥
- 55 なしとききしぞながらへにける
- 56 国とほきつてはまことのまれなれや

この連歌の「都鳥」は「新古今集」と同様に少しいぶかしい気がします。「新古今集」の使い方は少し諷刺的でしたがヒューモラスな感じはしません。

先の連歌にはそのヒューモアが出てきます。しかし、ヒューモアを入れてもこの連歌の意味の底には、「古今集」の歌の意味と感覚は重要な要素になっています。「名にしおはば」の歌の影響の過程によれば、「新古今集」の与えた意味をふくめて「古今集」の歌を思い出させるのが目的ではないでしょうか。

最後に、「古今集」と謡曲の関係ですが、ここにも「古今集」の影響がきわめて強いと思われます。「謡曲大観」に収められた224曲には「古今集」中169首の影響が353回でています。(注13)これは平均して各曲には「古今集」の歌1首半が出ている事になります。「名にしおはば」の歌は「隅田川」「丹後物狂」と「巴」の3曲に出ています。この謡曲の中では、ちょうど隅田川を渡った所で「名にしおはば」の歌を思い出すわけですが、シテの狂女

が子供をさがすテーマの最高潮になる所です。「丹後物狂」には「都鳥」だけが出ていますが、「巴」には「名にしおひたるやさしきよ」と出て来ます。謡曲の場合、「源氏物語」と同じように、「古今集」の歌とその意味をそのまま引用している事は普通ですが、先に述べた3種類の中には、歌の本や末や句や言葉だけの引用が多いかもしれません。

謡曲の場合特に「古今集」がよくわからないとそれぞれの曲を深く理解出来ません。

結論的には「古今集」の受けた影響と与えた影響の過程にあるもっと深い意味について考えたいと思いますがこれは「名にしおはば」による影響の過程だけではなく、羈旅歌の歌による影響の過程について考えた事です。

「古今集」の中国から受けた影響は仏教思想、の影響と思います。しかしこれは教理的な影響ではなく、「自然が人事化され」の譬喩的、観念的、時間的な影響だと思われます。「万葉集」の言葉の強さには神道思想、つまり言霊、があります。「古今集」の力と明るさはこの二つの思想つまり仏教と神道が一緒になった事です。古今時代と源氏時代の仏教思想の違いは「源氏物語」に見られる世の中の悲しみの思想が古今時代より強くなった事だと思われます。「源氏物語」の「古今集」の影響を受けた部分は「古今集」の歌の明るさを思い出させます。「源氏物語」にある「もののあわれ」の思想は新古今時代にはもっと強くなります。「新古今集」には古今の明るさの上に新古今時代の古今時代より悲しい無常観があります。連歌の連想的思想には古今の明るさと新古今の無常観の対照があります。謡曲の場合、「古今集」の歌は新古今時代の末法の思想と違がって、古今時代の明るい神道仏教思想を思い出させ、それを強調する為に使われたと思われます。

Literary. Structuralism の理論を使えばこういうふうに各時代に対する「古今集」の影響とその過程がわかるとそれぞれの時代の作品にある仏教思想がより理解されたいと思います。

Nicholas J. Teele November 7, 1977

- 注1 Barthes, Roland, "The Structuralist Activity", pp.157-163
in Gras, Vernon W. ed., *European Literary Theory And Practice* New York: Dell Publishing Co.:1973. See also
Sholes, Robert, *Structuralism in Literature*, New Haven: Yale
University Press: 1974.
- 注2 滝沢貞夫、「古今集の用語」、in「古今和歌集」日本文学研究資料刊
行会、有精堂、昭和51年、P.295
- 注3 これは契沖の「古今餘材抄」による。
- 注4 竹岡正夫、「古今和歌集全評釈」上、右文書院、昭和51年、P.957
- 注5 峯岸義秋「平安時代和歌文学の研究」、桜楓社、昭和40年、P.186
- 注6 安藤テルヨ、「古今集歌風の成立に及ぼせる漢詩文の影響について」
注2と同じ本に、P.179
- 注7 注6と同じ、P.187
- 注8 金子彦二郎、「平安時代文学と白氏文集」、昭和18年、P.111～130
- 注9 注2と同じ、P.295
- 注10 奥村恒哉、「新古今集の古今集」、皇学館大学紀要、昭和39年、3月、
P.20
- 注11 奥村恒哉、「源氏物語に引かれた古今集」国語国文、巻25、1号P.34
- 注12 金子金治郎、「菟玖波集の研究」風間書房、昭和40年、P.687
- 注13 佐成謙太郎、「謡曲大観」、第7巻、P.278～298

討議要旨

小山敦子氏（ニューヨーク日本文化研究所）より、「古今集」「伊勢物語」等の後世の文学への影響は自明である、レジメに「英語では今まで成されていなかった」とあるが、疑問である、旨の質問があり、発表者より、「なされていない」との返答があった。ドナルド・キーン氏（コロンビア大学、

国文学研究資料館）からも、講義中にふれることはあっても、まとまった論文はない旨の発言があった。

次に、小山氏は、結論を数字で裏付けようとしているが、方法的に疑問がある、特に一首の歌をとりあげて影響関係を論じるのは危険である、と発言した。これについて、発表者より、何をもって影響とするか、何が『古今集』の影響を受けているかについては、日本人研究者の意見にしがっている。目下、覇旅歌についてのみ調査しているので、今後の研究の進展を待つてほしい旨の返答があった。

最後に、福田秀一氏（国文学研究資料館）より、後代の作品が『古今集』をうけとめる場合、それぞれのもつ美学によって、うけとめ方は違うであろうし、影響のレベルも異であろう。したがって、影響の類別を行って研究をすすめるとよいのではないか、との発言があった。